

第4回 HRCG 論文輪読会報告

7月17日（日曜日）14時から約2時間、L-プラザ2階のミーティング・ルームにて第4回 HRCG 論文輪読会が開催されました。開催形式は対面とオンライン併用のハイブリッド形式でしたが、参加者は論文紹介者の君波和雄氏と岡村 聡氏の2名のほか、宮下純夫氏、田近 淳氏、小林 哲夫氏、中川 充氏、関根達夫氏、そして担当の高波鐵夫の8名でした。

論文概要は以下のとおりです。

1. 君波氏による紹介論文は、千島弧南端の国後島北部に分布する花崗岩質岩のジルコン U-Pb 年代に関する研究報告であり、千島列島の歴史が 31 Ma（前期漸新世）にまで遡ることを明らかにした。新しい年代報告を含む興味深い内容でしたが、本文と図説との不一致など問題点の紹介もあった。紹介論文, “De Grave, J., Zhimulev, F. I., Glorie, S. Kuznetsov, G. V., Evans, N., Vanhecke, F. and McInnes, B., “Late Palaeogene emplacement and late Neogene-Quaternary exhumation of the Kuril island-arc root

(Kunashir island) constrained by multi-method thermochronometry, Geoscience Frontiers, 7, 2 (2016) 211-220”.

2. 岡村氏による紹介論文は、高濃度核廃棄物地層処分についての適地選択基準を論じたものです。すでにフィンランドのオンカロや中国で用いられている各種の基準を紹介しながら、日本での文献調査候補地の寿都や神恵内における適地性についての問題を浮き彫りにされた。紹介論文, “Yong YE, Liang CHEN, and Jian LIU , Study on Rock Mass Classification Methods Used in the Geological Disposal of High-level, Radioactive Waste, Earth and Environmental Science, 861 (2021) 042118, doi:10.1088/1755-1315/861/4/042118”.

高波鐵夫（報告者）